

## 放送英語ニュースから学ぶオーラルコミュニケーション法

大川久（日本放送協会）

## 1. 英語ニュースのアナウンスの変遷

アナウンスは時代とともに変化しています。放送が誕生してしばらくの間、低音で重厚なアナウンススタイルがもてはやされました。これは古い時代のスタイルとして現在では一般的ではありません。

英語ニュースアナウンスのキーワードは、Conversational なアナウンスです。すなわち力まず、自然な会話に近い形で情報を視聴者に伝えるというスタイルが重要だとされています。Conversational なスタイルということは、アナウンスだけではなく、原稿の書き方も会話に近い形で文章を構成したり、用語を選んだりするよう求められています。

## 2. 英語アナウンスの必要条件

アナウンスの基本は正しい発音の把握であります。Pronunciation がしっかりしていることは音の要素を理解し、正しいアクセントを把握しているということです。アクセントを十分に理解すると、文章にリズムがでてきます。メリハリのある英語文章の読むには母音の発音も重要ですが、英語の子音がはっきり発音されていることがさらに大切です。

文章の個々の発音が明確にできてそれだけでは単調な表現になってしまいます。単調さをなくし、文章として興味をもって聞いてもらうには、文章全体に音の高低差をつけて意味を強調し、文章の意味に彩りを加えます。

さらに必要な条件として適正な tone の維持と、情報を音声によって前に送り出す適切な力のかけ具合、projection があげられます。こうした要素を備えれば一通りのアナウンスができる基礎ができたといえるでしょう。

アナウンスは緊張するとどうしてもペースが速くなるものです。安定したペースでアナウンスすることが視聴者の信頼感を得ることになります。米国では一分間に150から175ワードの読みが適当とされていますが、英語が母国語でない人にとっては速く聞こえるかもしれません。我々が行っている海外向け放送では英語が母国語でない視聴者もいることを念頭にこれより遅いペースでアナウンスしています。

英語アナウンスにとって一番大切なのが Comprehension です。すなわち伝える情報の中身を十分理解するということです。なぜ今このニュースをつたえるのか、ニュースの中身のなにが重要なのかを分からないままアナウンスをすると上滑りなアナウンスになってしまいます。また、息継ぎも自分の呼吸に合わせて行ってしまうため、意味の連続性が損なわれてしまいます。息継ぎは文章の意味の切れ目で行うのが基本的に大切です。

## 3. 英語ニュースを読む

英語ニュースを実際に読むにあたって最も重要なことは、ニュースの意味を伝えるということに集中することです。この点からニュースリーダーはブロードキャスターというよ

りは、コミュニケーターであるべきだと言われています。

実際の放送では、アナウンス技術のほかに伝え手の人間性まで現れてしまいます。1999年にオハイオ州のケント州立大学のジャーナリズム・マスコミュニケーション学部が全米の放送局のニュースディレクターに対してニュースプレゼンターに望む資質を質問したところ次のような言葉が寄せられました。

- Expressive, Energetic, Genuine, Pleasant, Intelligent, Believable, Melodious, Warm, Friendly, Sincere, Reassuring, Personable, Natural, Passionate, Relaxed,

特にテレビニュースでは、アナウンスの基本技術に加えて、視聴者を引きつけるためにこうした資質がキャスター選考において重要な要素を占めると思います。

#### 4. ニュースアナウンスの今日的傾向。

私は、現在のニュースアナウンスについて若干の質の低下を心配しています。私がまだ駆け出しの頃は、すばらしいアナウンスをする人が結構多くいて、その人たちのアナウンスを聞いて勉強したものでした。欧米のテレビ局にはNHKのようなアナウンスという職種が確立されている組織がありません。たいていリポーターやニュースデスクを経験して能力のあるものがニュースプレゼンターとして視聴者の前に現れるというプロセスを経ていきます。最近、欧米の放送局では合理化が進み、1人の人間が多くの仕事をこなすことが求められるようになりました。いわゆるオール・ラウンド・プレイヤーが重視される時代になりました。

その典型がビデオジャーナリストの誕生です。かれらは、取材、カメラ撮り、現場リポート、編集、構成、キャスターまで一手にこなします。ラジオの例をお話しします。数年前、オーストラリアの国際放送、ラジオ・オーストラリアが大規模なリストラを行いました。これまであったアナウンスの専門職をなくし、ニュース部門の人間が原稿の作成とアナウンスを担当するというものです。大きな労使間の紛争になりましたが、結局リストラは実行され、不満を持つ優秀なアナウンサーがしだいに局を去っていくという結果になってしまいました。こうした傾向は、放送にとって最も重要である音声表現がしだいに、One of Them の能力になってきていることを示していると思います。

このため、英語ニュースを英語学習に取りいれているかたがたにとっては、手本となるニュースアナウンスの専門性の高い人を見つけるのが今後難しくなるのではないのでしょうか。英語ニュースを勉強されるには、やみくもに聞くのではなく、自分にとって最も自然に聞こえるアナウンサーを探すのが英語によるコミュニケーション能力の向上に役立つものと思われます。